

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：こひばり保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：鎌田 多賀子	定員（利用人数）：60名	
所在地：〒214-0022 川崎市多摩区堰2-6-21		
TEL：044-819-5143	ホームページ： http://www.hibari-ns.ed.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2013年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人宿河原会		
職員数	常勤職員：16名	非常勤職員：4名
専門職員	（専門職の名称）：名	看護師：1名
	保育士及び幼稚園教諭：11名	管理栄養士：2名
	調理師及び子育て支援員：1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室	事務室
		相談室
		調理室
		職員休憩室
		乳幼児便所
		医務室
		野外遊技場
	食堂	

③理念・基本方針

<理念>

子どもに夢を 保護者に安心を 子育て応援します

<基本方針>

- 1.仲間と共に生きる力を育てる
- 2.「創る体験」を通し感受性豊かな子どもに育てる
- 3.食欲、意欲のある子ども、生活習慣をサポートして育てる

<保育目標>

- 1.仲間を思いやり、命の大切さを感じられる子ども
- 2.自分で考え、意欲を持って行動できる子ども
- 3.元気にあいさつのできる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

<こひばり保育園の特徴的な取り組み>

- こひばり保育園は第二の我が家となるように、子どもたちに関わる全ての人たちが家族のように過ごせるアットホームな保育園を目指しています。
- ワンフロアーの保育室を生かして異年齢児が兄弟姉妹のように生活できる環境は、子どもたちにとって大きな財産です。仲間と共にこれからの人間関係を“創る”はじめての一步を保育園で経験していきます。
- 保育園生活においては実体験を大切に、子どもを主体と考え、子どもの“やりたい！”を形にする保育を行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年07月21日（契約日） ～ 2022年03月03日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2015年度）

⑥総評

【こひばり保育園の概要】

●こひばり保育園の運営は、社会福祉法人宿河原会（以下、法人という）です。法人の保育事業では、昭和52年に第1号の「ひばり保育園」を開設し、昭和56年には、同保育園に乳児保育（0歳児保育）を開始しました。昭和58年には「体育クラブ・バレエ」を開始し、その為の保育園ホールの「ひばりかんとりーくらぶ」を平成6年に完成しました。更に、待機児童解消のための一助として、平成19年に「ひばりっこくらぶ保育園」を開園し、この3施設は同じ場所に集合していますが、「こひばり保育園」だけは久地駅の反対側に位置し、平成25年に開設されました。他、運営事業を多岐に展開しています。3つの保育園は、同じ運営方針で互いに協力し合いながら地域の子育てに大きく貢献しています。

●こひばり保育園は、JR南武線久地駅から徒歩7分位のところに位置しています。園舎はマンションの1階部分を専有し、大きな保育室で1歳～5歳までオープンに保育を展開している特色ある保育園です。園舎内は、保育室につながった大きな舞台があり、壁一面には青空が描かれており、その風景は圧巻です。そして、ガラス張りの厨房、ランチルーム、透明感のある事務室等が設備され、広い玄関を入れれば開放感が全体に溢れています。こひばり保育園は、年齢に拘泥されない自由な保育が行われており、職員・子どもの体制で米国のサドベリースクール的な自由な環境の中、年齢の違う子どもたちが学び合い、一人ひとりの好奇心を伸ばす形式が、日々の積み重ねと努力により少しずつ確立しつつあり、現在の職員体制でさらなる展開が期待されます。

◇特に評価の高い点

1. 【そらまめタイムの実践】

●こひばり保育園では、「そらまめタイム」と称し、様々な活動に力を入れています。「そらまめ」は成長が早く、天に向かって真っすぐ、すくすくと伸びて行きます。「そらまめ」に価値を置き、大人（保育士）は「サヤ」の役目、子どもたちを温かく包み込み、見守りながら応援します。「マメ（実）」の子どもたちは、小さな目標に気付き、夢を抱き、自分を好きになり、人と人との結びつきを大切に、「サヤ」の愛情に包まれながら個性豊かに成長します。一人ひとりの子どもたちは、生活、食育、運動（ムーブ）、造形（アート）、音楽（リトミック）、音読（お話しタイム）等、6つの「房」とした実体験を通して、それぞれの得意や能力が色々な花として開くことを願い、法人系列全園で推進して取り組んでいます。

2. 【ユニークな取り組み】

●こひばり保育園では、ユニークな取り組みが随所にあります。大きな保育室と舞台の部分に愛称を設け、舞台を「どんぐり」、広い部分（保育室）を「だいち」と呼び、子どもたちは空間に親しんでいます。そして、他2つのスペースがあり、玄関に入って左側にランチルーム（手前は厨房）、右側には子どものロッカースペースが設備されています。昼食は乳児から幼児までランチルームで取り、61名の子どもたちが順番に食事を行います。お腹が空いた子やまだ遊びたい子ども等、色々な状態での順番は、お腹の空いた子ども順としています。ランチルームが満員であれば入口の椅子に座って待つ主体的なルールができています。新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍）以前は子どもが厨房から食事を配膳していましたが、現在は栄養士がランチルームに出て給仕しています。ランチルームでは異年齢の子どもたちが、複数の兄弟関係の様に仲良く食事を楽しみ、とても家庭的で温かい光景があります。

3. 【「フラワーポジション」の定着】

●こひばり保育園の特徴の1つに、登降園時には専任の職員を固定する「フラワーポジション」システムがあります。このシステムは平成27年以降継続しており、他に類を見ない取り組みであり、評価の高い点として挙げさせていただきます。「フラワーポジション」システムは、送迎時の保護者対応に一躍効果を示しており、保護者のニーズにも対応でき、不安の解消にもつながっています。「フラワーポジション」の専任は、経験値の高い職員とし、園での様子、活動内容、子ども一人ひとりについても把握し、引継ぎノートや職員間の共有にて、保護者へ伝達内容を的確に伝えています。対応等は保護者からも大変好評を得ています。また、保護者は待つ間、ロッカースペースに設置されている情報を閲覧し、フラワーポジションの職員から子どもの話等を十分に聞いて子どもと手をつないで帰路します。システムが以前よりさらに定着し、確立されており、利用者満足度を高めています。

◇改善を求められる点

1. 【「フラワーポジション」について】

●前述に、「フラワーポジション」システムを記しましたが、気になる点として、利用者アンケートにおいて、受け渡し時の意見が少し含まれていました。以前はロッカールームで情報等を閲覧しながら、他の保護者と会話や情報交換を図りながら子どもの受け渡しが行われていましたが、現在は、玄関先での受け渡しとなり、会話を控えながら慌ただしい中で帰路する場面もあるようです。「フラワーポジション」は良いシステムですので、コロナ禍が収束すれば本来のポジションに戻ることでしょうが、現時点において、園で知恵を出し、「代替策」を考える良い機会ではないかと思われまます。当たり前ではない、難しい局面こそ、知恵の出どころであり、フラワーポジションを不動のシステムとするための工夫を是非、期待しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： こひばり保育園

施設長： 鎌田 多賀子

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

第三者評価を受審し、全職員で園運営についての振り返りをするきっかけとなりました。訪問調査では、保育の見直しはもちろんですが、自園の強みに気づかせていただき、励みにもなりました。

また、利用者アンケート結果を通し、園側の思いを的確に伝える難しさを感じました。さらなる保護者との信頼関係の構築に向け、努力をしていきたいと思えます。

<評価後取り組んだ事として>

1. 利用者アンケート結果を職員間で周知し、保護者理解が深められるよう、より丁寧な対応を心がけています。
2. 訪問調査での評価（強み）、利用者アンケートでの良い点と感じていることについては、さらに強化し、保育の質の向上へつなげていけるようにしています。
3. 評価結果を踏まえ、次年度に向けての園運営を検討しています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり